

り松 高田 鈴掛松 千駄ヶ谷 遊女松 同上 鎮座の松 澀谷 鞍懸松 代々木 一本松 麻布 笠

松千駄ヶ谷
松千手院

〔江戸名所圖會 十七〕時雨岡 同所○根 庚申塚といへるより三四丁良の方小川に傍てあり、一株

の古松のもとに不動尊の草堂あり、土人此松を御行○御行の松と號來由は姑くこゝに省略す、一に時雨松と

べりよ

回國雜記 忍ぶの岡といへる所にて、松原のありけるかげにやすみて、

霜の後あらはれにけり時雨をば忍びの岡の松もかひなし道興准后

按に忍の岡といへるは、東叡山の舊名なり、此地も東叡山より連綿たらば、回國雜記に出るといへるの和歌の意を取て、後世好事の人の號けしならん歟、

〔常陸風土記 香島郡〕郡南廿里濱里○中 以南童子女松原、古有年小童子俗曰加味乃乎止賣、稱那賀寒

田之郎子、女號海上安是之嬢子、並形容端正、光華鄉里、相聞名聲、同存望念、自愛心熾、經月累日、嫪歌

之會俗曰加我毘也、遯遁相遇○中 茲宵于茲樂、莫之樂、偏耽語之甘味、頓忘夜之將闌、俄而鷄鳴狗吠、

天曉日明、爰童子等不知所爲、遂愧人見、化成松樹、郎子謂奈美松、嬢子稱古津松、自古著名、至今不改、

〔重修本草綱目啓蒙 二十三〕松○中

增唐崎ノ一ツ松ハ、江州志賀郡唐崎ニアリ、日本後紀ニハ唐崎ヲ可樂崎ニ作ル、日本奇跡考ニハ

辛崎ニ作ル、唐崎松ノ記ニ云、天智天皇御宇コノ松ヲ栽シニ、天正九年ノ大風ニ倒ル、故ニ新庄直

頼ト云者フリヨキ松ヲ栽ヘツガシム、其コロ或人ノ歌ニ、自ラチトセモフベシ、唐崎ノ松ニヒカ

ル、ミソギナリセバト詠ゼリ、又同國大津石場ニ呼ツギノ松ト云アリ、文政元年ノ比マデハ至

テ小木ナリシニ、天保ノ末年ニ至テ僅ニ二十四五年ノ間ニ珍シキ大木トナリ益繁茂ス、此樹後

來必ズ唐崎ノ松ヲ欺クベシ、又丹後成合ニ片葉ノ松ト云モノアリ、又曾根ノ松ハ播州印南郡會

根村ニアリ、高サ一丈三尺、周リ一丈八尺アリ、戊亥ノ方ヨリ辰巳ヘサシテ七丈、丑寅ヨリ未申ニ